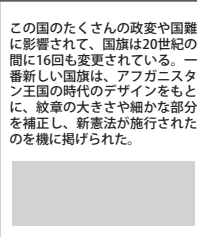
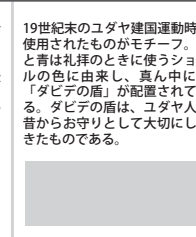
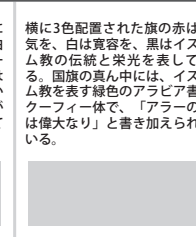
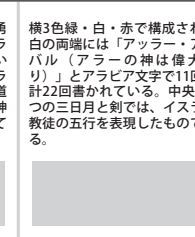
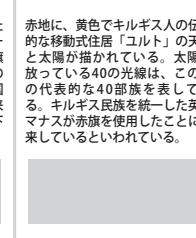
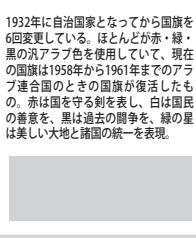
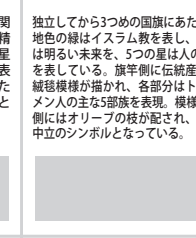
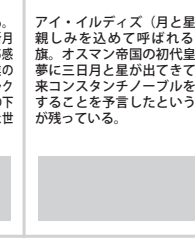
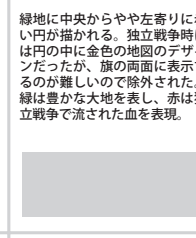
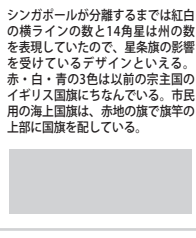
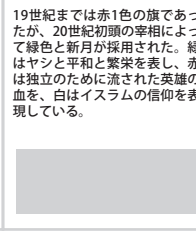
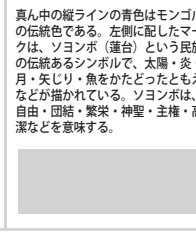
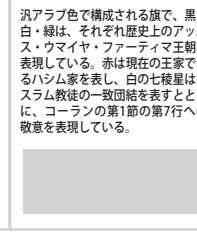
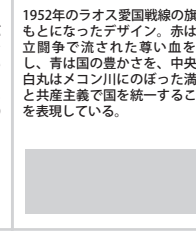
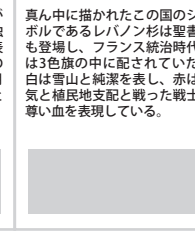


5. 国旗由来から国名当てクイズ

国旗の由来を読んで、その国の名前を答えの欄に書きましょう。

アジア											
<p>1918年から1920年までの国旗を修正して現在の国旗の形になった。上の青色はトルコ臣族を表し、下の緑はイスラム信仰を表し、中央の赤は近代化への貢献を表現していて、月・わおきの八角星はこの国に住む8つの民族に由来している。</p> 	<p>この国のたくさんの政変や国難に影響されて、国旗は20世紀の間に16回変更されている。一番新しい国旗は、アフガニスタ王朝の時代のデザインをもとに、紋章の大きな細かな部分を補正し、新憲法が施行されたのを機に掲げられた。</p> 	<p>連邦の7つの国のうち、フジャイラ以外は赤白2色の旗がある。連邦大統領旗は、中央の白色の部分に、胸に国旗と7つの星をつけたタカの国章がデザインされている。</p> 	<p>1918年から1921年まで使用された旗の比率が変わったものが現在の国旗。赤色は共和国のために流れていった人たちの血を表し、青色は永遠の国土を表現。オレンジ色は勤労と勇気を表現してデザインされている。</p> 	<p>南イエメンと北イエメンの統合時にできた旗である。赤色は自由と南北の統一のために流れた血を表し、白は輝ける未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。</p> 	<p>19世紀末のユダヤ建国運動時に使用されたものがモチーフ。白と青は礼拝のときに使うシヨールの色に由来し、真ん中には「ダビデの盾」が配置されている。ダビデの盾は、ユダヤ人が昔からお守りとして大切にしていたものである。</p> 	<p>横に3色配置された旗の赤は勇気を、白は寛容を、黒はイスラム教の伝統と栄光を表している。国旗の真ん中には、イスラム教を表す緑色のアラビア書道クーフィー体で、「アラールの神は偉大なり」と書き加えられている。</p> 	<p>横3色緑・白・赤で構成され、白の両端には「アッラー・アクバル（アラールの神は偉大なり）」とアラビア文字で11回計22回書かれている。中央の4つの三日月と剣では、イスラム教徒の五行を表現したものである。</p> 	<p>サフラン色は、自己犠牲の精神と勇気を表し、緑は弱者救済と信仰、白は平和と真実を表している。しかし、本来はサフラン色と緑はそれぞれヒन्दウ教徒とイスラム教徒に由来している。</p> 	<p>13世紀にできたマジャヒット王国が赤と白の2色の国旗を使ったのが発祥。1928年にインドネシア国民党がジャワで最初に掲げた。配色はモナコ国旗と同じであるが、インドネシア国旗は縦横比が2:3となっている。</p> 		
<p>上段の青は生命の源である水を表し、中段の白は平和を、下段の緑は爽やかな自然を表す。間の赤い線は、生命力を表現。新月はイスラム教国であることと国の独立のシンボルであり、12個の星は王道十二宮に由来している。</p> 	<p>1970年までは、赤一色だけの国旗が採用されていた。赤は侵入者に対しての争いを表し、緑は繁栄豊かな国土を表現、白は平和と繁栄のシンボルで、旗半側に紋章があらわれている。これは、オランダ古来の剣と短剣カンザルを組み合わせた国章である。</p> 	<p>青色は、カザフスタンの遊牧民が見ていた澄みきった空の色で、平和と幸福のシンボルである。真ん中に描かれた黄色のフンと太陽は、それぞれ自由と明るい希望を表現し、旗半側のアラバスク文様はカザフ民族の伝統的な装飾となっている。</p> 	<p>現在ではエジブ茶色が正式な色であるが、もともとは赤が太陽光線で退色したものとされている。左側の白のジグザグ模様は、この国が9つの行政区で構成されていることを表すという説と行政区分とは関係ないという説がある。</p> 	<p>独立してから何回も変更されているが、世界遺産のアンコールワット遺跡は、政権が変わってもいつも国旗のデザインに採用されていた。旧王国時代の国旗が復活したもので、1948年から1970年に使用されていたのと同じ。</p> 	<p>旗の中央にキプロス島をかたどったデザインが施され、その下にオリブの枝があらわれている。国連旗の発想と似通っている。オリブの枝は、トルコ系とギリシャ系の両国民の平和と協力を表し、黄色は古来からの特産品や銅などの豊富な地下資源を表現している。</p> 	<p>赤地に、黄色でキルギス人の伝統的な移動式住居「ユルト」の天井と太陽が描かれている。太陽が放っている40の光線は、この国の代表的な40部族を表している。キルギス民族を統一した英雄マナスが赤旗を使用したことに由来しているといわれている。</p> 	<p>黒・緑・白・赤を配置したデザインで、この4つの配色はアラブ諸国で多く使用されるため汎アラブ色といわれている。左側に黒の台形をあしらった珍しい旗で、以前のイラク国旗の影響が大きい。</p> 	<p>地色の緑は、イスラム教の聖なる色である。右から左にアラビア文字で「アッラーのほかに神は存在しない。マホメット（ムハンマド）はアッラーの預言者である」と書かれている。剣は聖地のメッカを守護する意味合いを持っている。</p> 	<p>12世紀から14世紀にかけて使われた中世グルジア国旗（サアクヴィリ大統領が率いる与党の「国民運動」の党旗にもなっている）をもとにして作られた。中央の大きな赤十字の四隅に4つの小さな赤十字を描いて、エルサレム十字と呼ばれている。</p> 		
<p>1932年に自治国となってから国旗を6回変更している。ほとんどが赤・緑・黒の汎アラブ色を使用していて、現在の国旗は1958年から1961年までのアラブ連合国ときの国旗が復活したのも、赤は国を守る剣を表し、白は国民の善意を、黒は過去の闘争を、緑の星は美しい大地と諸国の統一を表現。</p> 	<p>植民地だった1959年に掲揚されたが、マレーシア連邦の州時代には州旗としても兼用されていた。赤は世界各民族の友好と平等を表し、白は潔白と美徳を表現、5つの星は「民主主義、平和・進歩・正義・平等」が進展することを願い、三日月は発展する国家のシンボルである。</p> 	<p>独立した3年後に、イスラム教徒を表す緑と、ヒンズー教徒を表すオレンジ（サフラン色）のラインが採用された。剣をもつライオンは、この国のシバラハ人の伝説に出てくる動物である。四隅の葉は菩提樹で、スリランカ人の約70%を占める仏教徒を表現している。</p> 	<p>「トン・トライロング」（三色旗）と呼ばれている。1916年までは赤地に白線をデザインした国旗だったが、国内を巡視していた国王がたまたま逆に掲揚されていた国旗を見て、上下左右を反対しても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。</p> 	<p>赤と青のともえが中央に描かれて親しまれてきたデザインで、旗の図柄は陰陽五行説に由来している。国旗の原案は、朝鮮王朝の末期の国王である高宗によるもの。</p> 	<p>真ん中の紋章はさまざまな階級の人々の統一を表現。赤は主権と労働者を表し、白は綿花と知識人、緑は農産物と農民の象徴である。赤・白・緑の配色がイランの国旗と同じなのは、タンキスタンの民族がイラン系であるから。</p> 	<p>「五星紅旗」と呼ばれ、1949年に3000ほどのデザインの中からコンテストで優勝した曾連松のものを修正して国旗にした。中国革命と中国人民の一致団結のシンボルであり、階級や民族を表すという説は否定的である。</p> 	<p>上下の青いラインは平和への関心を表し、赤は人民の不屈の精神と社会主義であることを、星は朝鮮労働党の指導的役割を表現。白は古来からこの国の人たちが親んできた色で、純潔と光明のシンボルである。</p> 	<p>独立してから3つめの国旗にあたる。地色の緑はイスラム教を表し、新月は明るい未来を、5つの星は人々の夢を表している。旗半側に伝統産業の絨毯模様を描かれ、各部分はトルクメン人の主な5部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が記され、永世中立のシンボルとなっている。</p> 	<p>アイ・イルディズ（月と星）と親しみを込めて呼ばれる新月旗。オスマン帝国の初代皇帝の夢に三日月と星が出てきて、将来コンスタンチノープルを征服することを予言したという逸話が残っている。</p> 		
<p>法律上は日章旗と呼ばれ、一般的には日の丸として親しまれて使用され、1999年の「国旗国歌法」で正式に法で定められた。7:10の比率で、日の丸の中心が左寄りのもものも許容されている。</p> 	<p>1962年までの国旗には月と太陽に顔が描かれていた。3角を2つ重ねた珍しい国旗である。上の月は王室を表し、下の太陽は宰相一家を表現しているが、それと同時に月や太陽がある限りこの国が存続するようにとの願いも込められている。</p> 	<p>1906年に結成された全インドムスリム連盟の旗がもとになってできた。独立時に左側に少数民族の象徴である白い縦ラインを配した。緑色と新月と星で構成される典型的なイスラム教国の国旗である。</p> 	<p>かつての国旗はジグザグ模様で8個だったり直線だったが、パーレン王国の名を変更した際に国旗と元首旗のデザインを変えた。赤色はベルンヤ海岸諸国に昔から親しまれてきた色である。</p> 	<p>緑地に中央からやや左寄りに赤い円が描かれる。独立戦争時には円の中に金色の地図のデザインだったが、旗の両面に表示するのが難しいので除外された。緑は豊かな大地を表し、赤は独立戦争で流された血を表現。</p> 	<p>1975年11月に独立宣言をした際に使った旗を修正した図案である。赤は独立戦争で流された血を表し、黒は植民地時代の暗黒と克服するべき困難を、黄色は植民地主義の傷跡を表現。白は平和を表し、星の形は未来への希望のシンボルである。</p> 	<p>1898年に香港に亡命していた愛国者連合により最初の旗が掲揚された。青は高潔な理想を表現し、赤は国民の勇気を、白は平和と平等を表現。太陽は自由を表し、8条の光はスペインに最初に抵抗した8州を、3つの星はルソン島・ミンダナオ島・ビサヤ島の象徴。</p> 	<p>旗に竜を配するのは、国民に崇拜されているのと同時に中国の影響を受けているから。黄色は王家の権威を表し、オレンジ色はラマ教（チベット仏教）の修行を、白は純潔と忠誠を象徴している。</p> 	<p>はじめの国旗は黄色の1色だった。1906年に白と黒の斜めラインが加わり、1959年には中央に国章を配するようになった。国章はイスラム教を象徴する新月と、平和を象徴する両手を添えるデザインとなっている。</p> 	<p>金星紅旗（ベトナム語でコードサーオバーン）と呼ばれ、1955年までは星の角度が現在よりも大きかった。五芒星はベトナムを構成する労働者・農民・兵士・青年・知識人の5つの社会階層の象徴となっている。</p> 		
<p>シンガポールが分離するまでは紅白の横ラインの数と14角星は州の数を表現していたので、星条旗の影響を受けているデザインといえる。赤・白・青の3色は以前の宗主国のイギリス国旗にちなんでいる。市民の海上国旗は、赤地の旗で旗竿の上部に国旗を配している。</p> 	<p>1974年から使用してきた赤旗をやめ、上段から黄・緑・赤の3色旗とした。真ん中の大きな白星は永続する連邦を意味する。黄色は国民の団結を表し、緑は豊かな自然と平和と安らかさを、赤は決意と勇気を表現している。</p> 	<p>19世紀までは赤1色の旗であったが、20世紀初頭の宰相によって緑色と新月が採用された。緑はヤンと平和と繁栄を表し、赤は独立のために流された英雄の血を、白はイスラムの信仰を表現している。</p> 	<p>真ん中の縦ラインの青色はモンゴルの伝統色である。左側に記したマークは、ソヨボ（達台）という民族の伝説あるシンボルで、太陽・炎・月・矢・利・魚をかたどったともえが描かれている。ソヨボは、自由・団結・繁栄・神聖・主権・高潔などを意味する。</p> 	<p>汎アラブ色で構成される旗で、黒・白・緑は、それぞれ歴史上のアッバス・ウマイヤ・ファティマ王朝を表している。赤は現在の王家であるハシム家を表し、白の七稜星はイスラム教徒の一致団結を表すとともに、コーランの第11節の第7行への敬意を表現している。</p> 	<p>1952年のラオス愛国戦線の旗がもとになったデザイン。赤は独立闘争で流された尊い血を表し、青は国の豊かさを、中央の白丸はモンコン川にのぼった満月と共産主義で国を統一することを表現している。</p> 	<p>真ん中に描かれたこの国のシンボルであるレバノン杉は聖書にも登場し、フランス統治時代には3色旗の中に記されていた。白は雪山と純潔を表し、赤は勇気と植民地支配と戦った戦士の尊い血を表現している。</p> 	<td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </td>	<td> </td> <td> </td> <td> </td>			